三池の五月を象徴する風景。これは一地域分会の掲示板のアピール。

★五月の暦★

1日　働く者の祭典メーデー。
　　八十八夜。
3日　憲法記念日。博多どんたく。
5日　こどもの日。端午の節句。立夏。
8日　世界赤十字デー。
9日　母の日。
10日　愛鳥週間。
15日　沖縄本土復帰記念日。特定休日。

炭労・三池労組の76春闘なお続く。国会の動きにも注目を。

なお、組合結成30周年記念日を迎えるための準備も大切に。

いつまでも伝えよう
戦争のむごたらしさ
子供映画会でつくづく思ったこと

先日三池主婦会主催の〝子ども映画会〟があり、「蛙になったお姫様」と、「時計は生きていた」という、楽しいときを過ごしました。時間にして二時間ちょっとでしたが、集まった子どもたちは咳一つしないでおとなしく見ていました。

マンガの蛙にされたお姫様を、心のやさしい王子様が助け、多くの困難にうち勝って、最後にはハッピーエンドで終る、わかりやすく楽しい映画でした。

次の「時計は生きていた」では戦争のむごたらしさ、校庭にイモを植えるために、勉強はそっちのけで、先生の命令で働かされている子どもたち。現在の学生では考えられないことと思います。

その頃は供出といって、金属製の洋服のボタンも、お寺のつり鐘も、ついには可愛がっている犬まで兵隊さんの被服用の毛皮にするんだといって、子どもの目の前からつれて行くようなざんこくな場面も、映画は見せてくれました。

子どもが泣いていると、「お国のためにつれていかれたんだから がまんしなくちゃ」と、なだめられる……。

現在は、すべて使い棄ての時代です。私は返って、「ほしがりません勝つまでは」の合い言葉を思い出しました。

あの頃は何一つ命令にそむくことは許されず、人が成長して会社に行くようになってからは、「神風」と染めぬいたハチマキをきりりとしめて、勇ましく働いたものでした。

いまは、三池主婦会という組織の中で闘っている私は、私なりに社会の仕組みが少しずつわかってきました。二度と再び、戦争が起きないようにしなければなりません。

「蛙になったお姫様」はともかく、「時計は生きていた」は、戦争を知らない子どもたちに本当によい映画だったと思いました。

また戦争を知っている世代の人は、いつまでもそのむごたらしさを伝えて行き、永久に平和で暮らせるために力いっぱいがんばって行きたいものと、心から思ったことでした。

（この項主婦会・斉藤記）

×

主婦の皆さん、大いにペンを取りましょう。

映画
〝はだしのゲン〟好評

中沢啓治の長編漫画を山田典吾が脚色、監督した映画。東京・読売ホールや千葉、横浜での上映が三月末で終わったが、三会場の観客動員合計が六万三千五百八十七人と発表された。これは「製作と上映を成功させる会」の予想を上まわる大成功。このあと四～五月には、東京都下、前橋、仙台、名古屋、四国、福岡など上映の予定。【運合】

一つの思い出
四山大島分会　主婦　K・H

夫と私と取りにと、日の暮れるのも忘れての出合いて働きもしました。それも馴れは、戦争中ぬ手ながら、夫の炊事場づとめのことだっの協力というものがあったからたでしょうのことでした。

せめて、三人の子供を人なみに高校だけは卒業させてやりたいばっかりに、歯をくいしばったのです。

そんな私たちに追い打ちをかけるかのように、卑劣極まりない資本家どもは、組合の分裂をはかってきました。

――去るも地獄　残るも地獄

三池闘争は苦しい毎日であり、また労働者の妻として生き甲斐の日々でもありました。

「お父さんが差別されるのなら、差別される分だけお母さんが働いて見せるよ。だからあんたたちもよーく、お父さんお母さんに協力するのよ」

生活はきびしくても、明るい笑顔の絶えることはありませんでした。

あれはたしか、昭和四十九年の正月のことでした。

「おい、これ見ろよ」

夫が差し出して見せた一枚の色紙。よく見ると、夫自身が私へ贈る一句だったのです。

▼闘える妻に一献年初め

闘いのなかで生まれ、きたえられて育った、私たち夫婦の小さい愛のしるし。

それとなく見合わせた、あのときのこと。

いまもふと思い出しては、小さな笑いが顔のシワと重なり合いながらこみあげてくるのです。

※　※

春闘勝利団結観梅行
主婦会宮浦　森川久美子

主婦会宮浦支部は分会長会議の中で、「支部としての統一行事を普光寺で団結花見でもしたら」と提案がだされ、お寺の庭の臥竜梅もいまからだろうと討議の末、三月十四日にと話がきまりました。

私たちの分会は全会員揃って、その日バスで普光寺へ。

通路には道標がしてあり、舗装もきれいにされていて、二～三軒出店もありました。

普光寺にはもう十三年ほどきてなかったし、こけむした懐しい石段、弘法大師の仏像や十三の石仏もありました。登りつめてほっとしたとき茶屋の二階から、「皆さん、ご苦労さんでした」と支部長の声。

臥竜梅は、花が終っていて残念でした。

椿咲き十三仏に足とられ

定刻の午前十一時になると、茶屋の二階へ、子どもさんも含めて六十名くらいが集まりました。

スクラム組んで……の炭婦協の歌ではじまり、中屋三池労組宮浦指導部長の情勢報告、岡本主婦会宮浦支部長の挨拶につづいて、みんなで乾盃。

よろこびかくせず、パチリ……

それから福引きでした。食事ところではなく、「福引きは何等だろう、賞品は何だろう」と、気ばかりあせります。

結果は四等でしたが、チリ紙をいただきました。

和気あいあいと膳を囲んでの昼食のおいしかったこと。

食事が済むと雑談に花が咲き、私は茶屋の上の小高い山にも登って見ました。

何時もは、仕事や雑用に追われ、休日には、あれもしよう、これもしようといそがしい私たち。年に一度のこの催しに、みんなで参加したいものです。

臥竜梅の花は散っていましたけど、一本神社前の遅咲きの紅梅がきれいに咲いていて、私たちの目を楽しませてくれました。その花をバックに記念撮影。

写真うつりが済むと、私たちは再度茶屋の二階にもどり「春闘、閉山問題をかかえ、働く労働者、家庭の幸福を守るため、最後まで意志統一し、団結頑張ろう」を叫んで、行事のしめくくりとしました。

折角の休みを、家で何もできなかったけど、ふだん会えない人にも会って話ができ、一日楽しく過せたことがうれしくてなりませんでした。

来年は、もっと多くの人が参加されることを希望しながらペンをおきます。

花曇り石段で転び支えられた。

父ちゃをなかに、かあちゃんもばあちゃんも、孫もみんなで団結だ。

気分壮快、意気軒昂
暖春のヘラブナ釣り大会記
三池三川SFC　村上徳義

私たちは、三川鉱坑外の職場で働いています。安い給料にあえぎながら、日曜出勤、残業などの基準外賃金も生活の中にがっちりとばいり込んでいて、これらが少いと生活をおびやかされる。

労働時間の短縮や特定・特種休日の要求とはうらはらに。

「休日がふえれば、割増しがふえる。けっこう、けっこう」などと笑い話にもならない毎日で、本当に、残業のある日に定時で帰るのは気がひけるほどです。

そういう苦しい毎日ですので、元気に、楽しく、働き良い職場をめざして、同じ職場で働く仲間が共通の楽しみを持ち、なごやかに過すための一助にと、釣りクラブが結成されました。

三川鉱職場釣りクラブ、通称を三池三川SFCといって、やじ馬はスケベー・フィッシング・クラブじゃないかとひやかしますが、仲々楽しいものです。

その活動ですが、毎月積み立てを行ない、季節に応じた釣りをやろうということで、第一回は天草一号橋周辺で投げ釣り大会を行ないました。

四月十八日、第二回の催しを柳川の蒲池で、ヘラブナ釣り大会として盛大に行ないました。

参加者十一名、賞品はクーラーに釣り竿など多数。獲ものは三十キログラムに近い大小のヘラブナというわけでした。

はじめてヘラブナ釣りをやる人が半数近くありましたが、前日より勉強した甲斐があり、それに仲間の指導よろしきを得て思わぬ大漁でした。

昼食時には、御神酒も出て、日ごろ酒にまみれた体を十分に洗い流し、気分壮快となったところで、ささやかではありましたがみんなの努力で準備できた賞品を渡すと、ますます意気が上がって楽しい一日が終りました。

帰途につくと、世は春闘の真っただなか。いこいの一日を過ごしたクラブ員の顔には、かねて見られない充実感があふれているところを、私ははっきり見ました。この洗い直された力を明日へと持続していって、仕事に春闘に頑張りたいものです。

毎日、苦しい生活の中で頑張っておられる仲間のみなさん、生活にうるおいを忘れず、意気軒昂で歩いて行きましょう。

同好の志よ、一人でも多くきたれ！